

世代を超えて  
地域づくり

# 助け合いの和を広げよう！

〈自助・共助・公助〉とは  
みんなで考えよう

広報紙では、皆さんの身近で日ごろから地域のために尽力されている町内会長さん、自治会長さんに登場いただき、ご紹介しています。

今回は、本町・川向町内会で長きにわたり町内会を見守ってこられた川野会長にお話しを伺いました。

本町・川向町内会  
川野敏夫<sup>かわの としお</sup>会長



## 子どもから大人まで

### 幅広い交流

わたしたちの町内会は、子どもから大人まで幅広い年齢層で構成されており、皆さんがとても協力的ですので良い交流ができています。

除雪や草刈りもみなさん協力的で、今シーズンの除雪は大雪でたいへん苦労する中、町内会でリースしているショベルを利用しており、わたしが運転していると、休日などは若い人たちが声をかけてくれて運転を交替してくれるなど、協力体制をつくり交流を深めながら事故もなく作業を進めることができました。

また、草刈機も町内で所有しているものを貸し出して、自分の家周りをするついでに集会所周りも草刈りをするなど、有効的に利用して

もらっています。

町内会の行事については、あまり変わったことをしていませんが、8月の日曜日に開催する味覚祭には、ふだん行事に参加できない町内の人たちも、家族連れで参加してきて、にぎわいを見せています。また、この行事には、他の地区の子どもたちにも参加していただき、楽しんでもらっています。

今後、予算の関係もありますが、若い世代の人たちにも興味を持ってもらえるような新しい行事を考えていかなければと思っています。

## 子ども・高齢者の

### 見守り強化！

本町内会は、現在105世帯で構成していますが、このたび東光二区にお住まいのたがたも加入されることから約120世帯まで増えることになりました。9割が市営住宅で、昔の炭鉱時代の流れから、近所付き合いも薄れてはいないようです。高齢などで心配されている世帯には、町内会

の役員や隣近所の人たちが、声かけをしたり家庭を回ったりして親身な付き合いをしてきています。

雪解けとともに子どもたちが、自転車に乗ったり、ボール遊びをしたりする時期になってきたので、事故に遭わないように注意を呼びかけるなど見守りを強化し、安全な町内になりたいと思っています。

決して活発な活動をしているとは言えませんが、町内会の皆さんがより興味を持ってくれるような地域にしていきたいと考えています。

## 町内会活動に

### 参加・ご協力を！

市では町内会や自治会に対して、市政全般にわたるさまざまな仕事において、地域の皆さんとの橋渡しをする役割をお願いしています。

皆さんの地域をよりよく住み良いものとするために、町内会・自治会活動をご理解いただき、行事等への参加やご協力をお願いします。

# 歌志内市長賞・教育文化奨励賞

スポーツ、文化・芸術の各分野で優れた成績をおさめた市民を表彰する、平成23年度の歌志内市長賞並びに教育長からの教育文化奨励賞受賞者が決定し、3月29日、市長室で授与式が行われました。

今回の受賞者には、歌志内市長賞のスポーツ賞に加藤優さんと、歌志内市教育文化奨励賞に熊谷菜梨さんが選ばれました。なお、在学校と学年は、授与式当日のものを記載しています。

## 歌志内市長賞 スポーツ賞

◆加藤優さん（中学2年生）

今年1月に行われた平成23年度北海道中学校体育大会第44回北海道中学校スキー大会において、大回転3位と好成績を収め、さらに、第10回イタリア・アベトーネ（ピノキオカップ）大会選考会での優秀な成績が認められ、国内から選考された10人の一人としてFISチルドレン「ピノキオ」カップに出場されました。今後の全道・全国のスキー界において、一層の活躍が期待されるところです。



▲泉谷市長と談笑する加藤さん(右)と熊谷さん(左)

## 歌志内市 教育文化奨励賞

◆熊谷菜梨さん（中学2年生）

昨年、第16回赤十字絵画コンクールにおいて、全道1,452点の出品作品の中から、みごと金賞を受賞しました。入選作品は、主催の日本赤十字社北海道支部のホームページに掲載されており、北海道庁ロビーを会場にした、赤十字パネル展にも展示される予定となっています。

# 親愛の家で竣工式

救護施設親愛の家で4月7日、社会福祉法人北海道光生舎による移転改築工事竣工式が開催されました。

あいさつに立った高江智和理事長は、「職員をはじめ、歌志内市の町内会の皆様のご協力をいただきながら、この地でご一緒に生活させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願



います。」と地域との関わりについて話されていました。

## 暖かみのある新施設を見学

竣工式終了後には、施設内の見学会が行われ、山小屋風で清潔感あふれる明るく広々とした建物内を、参加者は熱心に見学していました。

同施設は、木をふんだんに使用した暖かみのある作りが特徴的で、旧親愛の家と比較すると約2倍の建築面積で、構造は木造平屋建てのバリアフリー使用となっており、壁には手摺りが取り付け



られ、床はノンスリップフロアーが施されています。また、車椅子対応設備機器も備えられ、浴室には、一般浴室と介護浴室が設けられるなど、入所者の高齢化に対応した施設となっています。